

## 令和元年度第2回大和市総合教育会議議事録

- 1 日 時 令和元年8月27日(火) 13時30分～14時20分
- 2 場 所 大和市役所 5階 研修室
- 3 出席者 市長 教育委員会(柿本教育長、青蔭教育長職務代理者、小松委員、前田委員、森園委員)  
市職員(政策部長他10名)
- 4 傍聴人 なし
- 5 議 題 (1) 教育大綱の改定に向けて
- 6 資 料 ・ 次第  
・【資料1】教育大綱の改定に向けて  
・【資料2】教育大綱(現行)

---

### 【会議要旨】

#### 1 開会

#### 2 市長挨拶

#### 3 議題

##### (1) 教育大綱の改定に向けて

事務局 : (資料1について説明)

教育長 : 教育委員会では、これまで平成27年度に策定した教育大綱の方針に沿って、教育に関する事業に取り組んできた。今年度に行う教育大綱の見直しにあたっては、これまでの取組を振り返る一方、これから取り組むべき社会課題をしっかりと考慮していく必要があると思う。改定された教育大綱が、新しい時代を乗り越えていくための道標となるよう、総合教育会議の協議に力を尽くしていきたい。

教育委員 : 次期教育大綱への改定に向けて、3点意見を申し上げる。1点目は、現在の大綱の方針「子どもの健やかな成長に向けた切れ目ない支援を推進します」を踏まえた意見である。大和市ではこれまで積極的に保育環境を整備し、その結果、待機児童数を4年連続ゼロとできたことは、大変評価できると思う。今の子どもたちを取り巻く環境は大きく変化している。現在の社会環境を踏まえると、これからは共働き世帯が増えていくことになる。様々な家庭の状況があるかと思うが、それに左右されず、大和市の全ての子どもたちが健やかに育っていくには、これまでの取組からもう一步踏み出していくことが必要かと思う。これ

からの時代には、まず、親自身が、親として成長していくことが求められると思う。そのためには地域の力を活かしていくことが大切である。地域で子育てを支援する人たちや、子育て中の親同士が交流することによって、家庭の中だけで悩まずに、多くの方々の知恵と経験を活かすことができる。その交流は、親が親として成長することにも繋がる。地域の力を育てるには、地域のネットワーク作りをしっかりと支援していくことが大切かと思われる。そのきっかけとして、子育て中の親たちに、子どもたちと一緒に地域の行事に積極的に参加していただくよう促していきたいと思う。これまで力を入れてきた「切れ目ない子育て支援」について、これからは、特に小学校に入学する子どもたちの家庭を支援することが大切になるとと思われる。大和市では保育環境が整い、家庭の状況に応じた様々な選択肢が構築された。一方で、様々な選択肢ができたことによって、小学校では、入学する子どもたちについて、事前に情報を得ることが以前より難しくなっている。入学前に子どもたちの個々の状況が分かると、早い段階からそれぞれの事情に応じた支援ができ、健やかな成長を支援することに繋がる。これからは小学校に入学する前の子どもたちへもっと目を向けていくことが求められていると思う。

2点目は、現在の大綱の方針「健康に関する教育を推進します」を踏まえた意見である。「健康都市やまと宣言」から10年が経過した。今では、大和市と言えば健康都市というイメージがしっかりと定着してきた。大和市では、全ての世代に健康の大切さを伝えてきた。健康について正しい知識を身につけられるよう、シリウスには健康都市図書館が設置されたほか、子育て何でも相談・応援センターでは、子育てに不安な両親に多くのサポートをしている。子どもたちには、学校給食を通して「食べる」ことの大切さ、食べた後の例えば、歯磨きの大切さ、そして、外で遊ぶことで心身ともに健康でいられることなど、健康について様々なことを伝えてきた。そのような中、今年度からの新しい学校教育基本計画では、4つの基本目標の1つを「安全安心な環境を整え、健康な心身を育てます」とした。具体的には、子どもたちが運動することの大切さや、食事をしっかりと取ることの大切さなどを学び、健康に関心を持ってもらう取組を進めていく。学校で健康の大切さを学んだ子どもたちが家へ帰れば、家族がみんな健康を考えることに繋がる。「健康都市」の実現には、子どもたちが健康でいることの大切さを学ぶことが、ますます重要になっていくと思う。

3点目は、現在の大綱の方針「あらゆる世代の知性を高め人生を豊かにする読書活動を促進します」を踏まえた意見である。累計来館者数が800万人を超えたシリウス、そして北の中央林間図書館、南の渋谷図書館と、素晴らしい施設が整い、大和市はキャスルライブラリーと言うか、正に「図書館城下町」と呼ぶにふさわしいまちになった。加えて、市内全ての小・中学校でも図書館をリニューアルし、司書を全校に配置するなど、子どもたちの読書環境の向上が積極的に図られた。その結果として、平成30年度には、子どもの読書活動優秀実践校として文ヶ岡小学校が文部科学大臣表彰を受賞した。これで4校目

になり、大和市の読書活動の推進が全国的にも評価を得ることができた。AIをはじめとする科学技術が急速に発達し、将来の予測が難しい時代では、「何を知っているか」ではなく、「それを使ってどのように社会と関わっていくのか」までを視野に入れ、社会の変化を柔軟に受け止めることができるようにならないといけない。未来の子どもたちの生きる力の構築は非常に大切なポイントになるかと思う。そのような人を育てるには読書が重要なツールになる。調べる学習や家読（うちどく）などをより深めること、そして、図書館司書の力を借りることが大切になろうかと思う。市民の皆さんには、まだレファレンスサービスという言葉に馴染みがない方が多いと感じている。直訳すると本の案内役ということになろうかと思うが、本を探すとき、どんな本が良いか分からないときには司書に声をかけて、その力を活用していただけるよう、制度を周知していく必要があると思う。大和市ではこれまで、どこよりも積極的に読書の推進に取り組んできたが、これからも市民が読書に接する機会がたくさん持てるように取り組んでいくことが大切であり、そのことを心から切に願っている。

教育委員：現在の大綱の方針「夢や目標に向かってたくましく生きる子どもを育てます」を踏まえて、2点意見を申し上げる。

共働き世帯が増え、子どもたちを取り巻く環境が複雑になっている今、多くの子どもたちにとって、集団や異なる年齢との間で交流する機会が少なくなり、室内での遊びや一人遊びに偏っているところがあると思う。そのような中、放課後児童クラブ、放課後寺子屋やまと、放課後子ども教室の放課後3事業は、大変重要な役割を果たしており、放課後の子どもたちにとって大切な居場所になっている。放課後児童クラブは、働いている親にとって、そして、子どもたちにとっても安全で、安心して過ごせる場所として欠かせないものになっている。放課後寺子屋やまとは、参加する子どもたちが年々増え、しっかりと根付いたものになった。放課後寺子屋やまとは、単に放課後の居場所となるだけではなく、子どもたちが「分かる喜び、学ぶ楽しさ」を体験できる学習を通し、学び残しを減らし「確かな学力」を育むことに繋がってきている。放課後子ども教室では、学年を越えた集団での遊びを通して人間形成に必要とされる基本的な社会性、自主性、創造性を養うことに繋がっている。今まで放課後に関わることでできなかった様々な友達と学び、遊び、地域の方々と交流をすることは、児童の健全育成の観点からも非常に有意義なものであると思う。このように放課後3事業をはじめとして、これからは、子どもたちにそれぞれの可能性を広げるための選択肢を提供し、子どもたちが自発的に様々な経験ができるような環境を整えていくことが大切になっていくと思う。

次に、学習に対して困難を抱える子どもたちについて、この様な子どもたちが、夢や目標に向かってたくましく生きていくには、特別な配慮が必要になる。配慮が必要な子どもたちは、特性やニーズが一人ひとり違うので、それぞれに異なった支援が求められていると思う。こうした中で、今年度から、特別支援教

育センター「アンダンテ」が開所された。これまでよりも、さらにきめ細かい配慮ができるようになり、障がいのある子どもたちの自立や社会参加に繋がる大変に評価できることだと感じている。また、日本語での授業に支障があるような外国に繋がりのある子どもたちへの配慮も必要である。これまで日本語指導員を派遣するなど支援をしてきたが、ますます進んでいく国際化に追いつくよう、より一人ひとりに寄り添った支援をしていきたいと思う。多様な価値観を認め、個々の良さや可能性を伸ばす教育を進めることが、子どもたちの未来を切り拓き、新しい社会をたくましく生きていくことに繋がると思う。

教育委員：3点意見を申し上げる。1点目は現在の大綱の方針「創意に満ちた活力ある教育環境を整えます」を踏まえた意見である。大和市では、老朽化した学校施設の大規模改修や防音工事、学校のトイレの床の乾式化やトイレの洋式化、男子トイレの完全個室化など、学校の環境改善を進め、子どもたちが学びやすくなるように努めてきた。教員の皆さんに目を向けると、自らが課題意識を持ち、課題解決のために行動することができる実践力を養うため、昨年度から実践力向上研修部会を設け、教員の皆さんの学びを支援している。このように、ハード・ソフトの両面から取り組むことが重要だと思う。そして、これからの教育環境は、学校だけで考えるのではなく、大きく一步を踏み出し、家庭、地域と一緒に子どもたちの教育を考えていく時代であると思う。そのために、学校評議員の皆さまの力を借りて、大和市では「地域とともにある学校づくり」とはどうあるべきかをしっかりと考えて、新しい時代を乗り越えていくための、新しい学校運営の仕組みを作っていく必要があると思う。

2点目は、現在の大綱の方針「国際社会での活躍の礎となる英語力や国際感覚を育みます」を踏まえた意見である。社会のグローバル化が進む中、子どもたちにとって、異文化理解や異文化コミュニケーションはますます重要になっている。その際に、英語力は異文化理解やコミュニケーションの基礎になる。大和市は、とても国際色豊かな環境にあるが、それでも子どもたちが英語をはじめとする外国語を日常的に使用する機会は限られている。今の子どもたちが社会で活躍する頃には、今よりも遥かに、多文化・多言語・多民族の人たちが協調と競争する国際的な社会になることは間違いない。そうした中で、様々な場面において、英語でのコミュニケーションが求められる機会が格段に増えていると思う。夏休みのイングリッシュデイについて、本年は8月3日に行われたが、英語によるコミュニケーションを実際に体験することができるとても良い機会になっている。また、平成29年度からインターネットでオーストラリアの小学校と繋いで、リアルタイムで交流を行い、子どもたちが楽しんで異文化コミュニケーションをしている。これからも子どもたちにこのような機会をたくさん経験してもらい、楽しく英語を学び、英語を好きになってもらうことが、国際感覚を育み、新しい時代を乗り越える力を身に付けることに繋がっていくと思う。

3点目は、現在の大綱の方針「時代に即した先進的な情報教育を実施します」を踏まえた意見である。AIをはじめとする科学技術が急速に発達し、将来の予測が難しい時代では、ICT機器を使いこなす力、機械には行えないであろう人間的な感性を働かせ、新しいものを創造する力、この2つの力を同時に身に付けておくことが必要である。大和市では今年度、中学校1年生の全クラスに電子黒板機能付きのプロジェクタを整備するなど、他の自治体に先駆けてICT環境の充実を図っている。このような環境を整えることで、子どもたちは、論理的に筋道を立てて考える力、いわゆるプログラミング的思考をより早く身に付け、これからの時代に必要となる2つの力を同時に育てることに繋がる。一方で、今の子どもたちは、小さな頃からICT機器に親しんでいるが、ネット依存やSNS等でのトラブルには注意が必要である。現在、ICT機器と正しく付き合えるよう、情報モラル教育を推進している。しかしながら実は、子どもたち以上に情報モラル教育が必要なのは、保護者の方である。子どもたちの方がICT機器を使いこなしている今、保護者には、子どもたち以上に情報モラル教育を学び、その重要性を理解し、家庭でしっかり話し合い、コミュニケーションを取ることが必要になることを理解してもらいたいと思っている。これからは、学校から保護者に働きかけると同時に、また、保護者からの要請に学校が応えられるような関係をしっかり構築し、双方の連携のもとで情報モラル教育に取り組める環境を整備していくことが大切になると思う。

教育委員：私からは、3点意見を申し上げる。

1点目は、現在の大綱の方針「いじめ・不登校問題の解消に真摯に取り組みます」を踏まえた意見である。学校教育において、いじめは絶対に解消しなければならないことである。徹底して取り組む必要がある重要な課題である。いじめをなくすためには、子どもたちへの深い理解を心掛け、指導の充実を図り、子どもたちが楽しく学びつつ、いきいきとした学校生活を送れるようにしていかなければならないと考えている。不登校問題では、子どもたちそれぞれ不登校になる理由は異なるが、学校が果たすべき役割はとても大きいものである。しっかりと子どもたちを見つめた指導を行うこと、家庭への働きかけを行うことにより、楽しく登校できる環境にしていくことが必要かと思う。大和市では、学級集団アセスメントテストを実施して、目に見えにくい子どもたちのいじめ、不登校の兆候を早期に知り、問題の解消に役立てている。これまで未然防止、早期対応を徹底してきたが、今後は問題が起こった後の早期解消にも、より力を入れていかなければならないと考えている。しかし、いじめでも不登校でも、問題の解決のためには、まず家庭内教育が一番重要な役割を担っていることに間違いはない。子どもたちが笑顔で人生を送るため、生きる力を育むためには、学校と家庭がお互いに信頼関係を作り、地域、関係機関としっかりと連携が取れる環境を整備して、迅速かつ的確に、子どもたちの目線に立った対応ができるよう、組織的な対応力を一層強化していかなければならないと考えている。

2点目は、現在の大綱の方針「市民の豊かな心を育む生涯学習を推進します」を踏まえた意見である。人生100年時代という言葉も広く認識されるようになった。そして、核家族化や未婚率の上昇によって、高齢者のおひとり様が増えている。100年という人生、おひとり様の生活を、より充実したものにするためには、生き甲斐づくりや、多くの人が集える場所が必要になると思う。大和市では、これまで市民が集える場所になるよう、様々な施設を整備してきたが、これからは、この充実した現在の施設をどのように活用していくかが重要になる。今年度は、気軽に学べる環境、居場所としての学びの場として、健康都市大学を開設して、「市民でつくる健康学部」では市民が受講生として講義を聴いて学ぶだけでなく、自身が持つスキルや知識、経験を基に講師をさせていただき新しい取組がスタートした。大変多くの方が参加していることから分かるように、会社での縁、血縁、地縁が希薄になってきた今の社会では、出入りが自由で、緩く人と人が繋がる環境、例えば、おひとり様が気軽に集えるカフェや、老若男女問わず好きなときにスポーツなどを楽しめる環境が必要な時代になっていると感じる。

3点目として、災害や交通事故などから子どもたちをどう守るかという大きな課題について、意見を述べさせていただく。日本は、地震が多発する地域にあるため、今後もいつか来る地震の発生は避けて通れないし、異常気象による豪雨災害もまた頻発していることは周知のとおりである。そして、5月には、大津市で、散歩中に信号待ちをしていた子どもたちを襲った交通事故、川崎市では、スクールバスを待っていた小学生や保護者を狙った通り魔事件など、痛ましい事件が続いた。6月には、実刑判決が確定し、刑務所に収容する前に包丁を持って逃走した男が大和市内に逃げたとの報道は、市民を震撼させた。このような脅威から子どもたちをどう守っていくのか、心配する保護者の皆様の声を大変多く聞いた。自然災害に対しては、各学校では防災マニュアルを作成し、定期的に避難訓練などを実施している。昨今の事件に対しては、「大和市子ども見守り隊」による活動を徹底し、通学路や学校周辺で、大和市の青色パトロールによる巡回を強化していくなどの対策を行っているところである。これからの時代には、自然災害に対しても、交通事故などの脅威に対しても、子どもたちの安全安心を守るためには、社会環境の変化もしっかり考慮して、学校、家庭、地域の力を総動員して、連携を強めていくことが欠かせないことであると考えている。そして、子どもたちには自分の命を守ることの大切さも伝えていく必要があると考えている。

最後に、全体的な意見として、総括的に述べさせていただく。教育委員会では、一致して「健康都市やまと」の実現を目指し、様々な事業を行ってきた。今年度からは、新しい「健康都市やまと総合計画」のもとに、「学校教育基本計画」をはじめとする教育大綱に関連する計画も改定し、教育を取り巻く全ての環境の変化を見据えて、教育大綱関連事業を進めているところである。今回の教育大綱の改定に当たっては、現行の教育大綱の考え方を基礎として、教育行政を

さらに推進させていかなければならないと深く考えている。

所管部 : 委員から現行の教育大綱の方針のうち、「子どもの健やかな成長に向けた切れ目ない支援を推進します」を踏まえたご意見があった。本市ではこれまで、保護者の意向や、各地域における保育需要を的確に捉えながら、保育を必要とする子どもが保育所等を利用できるよう幼児期の教育・保育の提供体制を計画的に整備してきた。今後も保育需要は高まり続けることが予測されることから、保育所等の整備を進めるとともに、保育の質及び安全性を確保する取組の強化を図っていききたいと考えている。また、核家族化や地域のつながりが希薄化する中で、育児の不安を抱える保護者が増えている。すべての子育て家庭の孤立を防ぐため、地域の子育てに関する支援拠点や、ネットワークを充実させるとともに、子育て中の保護者同士が気軽に情報交換できる場の拡充など、子育て中の親子のつながりがさらに充実するように努めていききたいと考えている。また、子どもの放課後にかかる取組についてのご意見もいただいた。共働き家庭が増加し、少子化が進む昨今、子どもたちが心身ともに健やかに成長するためには、放課後の時間を過ごす居場所の重要性が高まっており、事業内容の充実に取り組んでいるところである。放課後児童クラブについては、保育所同様、引き続き待機児童を生じさせることのないよう努めるとともに、放課後児童クラブ、放課後寺子屋やまど、放課後子ども教室の3事業がより効果的に運営できるよう連携強化を図り、子どもの安心・安全な生活、学び、遊びの環境整備を行うことで、子どもたちの放課後の時間がより一層充実したものとなるよう、取り組んでいく。

所管部 : 「図書館城下町にふさわしいまちになった」との評価を委員からいただいた。大木市長就任以来、学校図書館を含め様々な読書環境の充実を図ってきた。シリウスの図書館がオープンし、中央林間図書館、渋谷図書館と連携体制を構築した上で、各学習センターの図書室ともネットワークで結び、各種図書サービスの提供が市内全体に行きわたるよう、取組を進めてきた。そうした成果が昨今、表れつつあるものと感じている。これからも市民の皆様が読書に接する機会が多く持てるよう、積極的に読書活動を推進していききたいと考えている。また、人生100年時代に対応した市民の居場所づくりに関するご意見もいただいた。本市において、「おひとり様の居場所づくり」については、早い段階から課題として認識し、様々な施策を展開してきたが、今後も、その重要性はますます高くなっていくものと考えられることから、委員からご提案のあった意見を含め、時代に合った施策を積極的に検討していききたいと考えているので、よろしくお願ひしたい。

所管部 : 委員から、「子どもたちが健康でいることの大切さを学ぶことがますます重要になる」とのご意見をいただいた。子どもたちの健康に繋がるよう、学校では、

担任や栄養教諭などを中心に食育を推進する取組など、健康に関心を持つことができる事業を進めていく。また、委員から「子どもたちがそれぞれの可能性を広げるための選択肢を提供すること、自発的に様々な体験ができる環境を整えていくことが大切になる」とのご意見もいただいた。放課後3事業については、教育的な視点に立ち、子どもたちの将来に役立つよう、それぞれの事業の連携を具体的に進めていく。さらに、「新しい時代を乗り越えていくための、新しい学校運営の仕組みを作っていく必要がある」とのご意見をいただいた。現在、地域と連携する学校として、いわゆるコミュニティスクールについて調査研究を進めているところである。その結果を踏まえ、大和市における学校運営はどうあるべきか、具体的な施策を進めていきたいと考えている。このほか、「子どもたちの安全安心を守るには、学校、家庭、地域の力を総動員して、連携を強めていくことが欠かせない」とのご意見もいただいた。子どもたちの登下校時の見守り活動の充実を図るため、先月、自治会、PTA、各小学校から選出された方々、警察や市内の関係団体などから構成される「大和市子ども見守り活動協議会」を設立し、昨日、これまでに見守り活動にご尽力下さった多くの方々にお集まりいただき、「大和市子ども見守り隊」の発足式が開かれた。これまで以上に地域の方々と連携し、子どもたちの安全安心を守るよう努めていく。教育部としては、今年度からの新しい学校教育基本計画に沿って、様々な事業を進め、「健康都市やまと」の実現を目指し、取り組んでいく。

事務局：本日は、教育大綱の改定に向け、幅広い観点からご意見を賜り、感謝申し上げます。委員各位の現行の教育大綱に対する認識、そして、今後の教育に関わる社会的課題等への考えなどについては、事務局で想定している改定の方向性と概ね合致しているものと受け止めさせていただいた。このため、本日のご意見等を踏まえて、議論のたたき台となる大綱の原案をまとめたうえで、次回の総合教育会議で示し、協議いただきたいと考えている。

市長：ただ今、最後に事務局から説明のあった通りの方向で教育大綱の改定を進めていきたいと思うが、どうか。

(一同同意)

4 その他

5 閉会